

池田町文学碑年表

江戸時代		明治		大正	
天明6 (1786)	内山 真弓 会染・十日市場に生まれる	明治10 (1877)	長谷川白鷺 池田を訪れる (6月没)	大正7 (1918)	花の本聴秋 句碑建立 「鶴にのるおもひや 春の雲の上」
天明8 (1788)	池田学問所がつくられる	明治12 (1879)	岡 麓 東京湯島に生まれる	明治16 (1883)	藤森 桂谷 広津北山学校へ赴任する
文政11 (1828)	香川 景樹 歌碑建立「久方の天の岩戸のあけしより くもいにのこるありあけの山」(建立年不明)	明治17 (1884)	齊藤 瀏 七貴村に生まれる	明治28 (1895)	浅原 六朗 池田に生まれる
天保6 (1835)	杉山 巢雲 寿碑池田八幡神社境内に建立	明治18 (1885)	藤森 桂谷 東京に生まれる	明治31 (1898)	島木 赤彦 池田尋常高等小学校に赴任する
嘉永6 (1853)	藤森 桂谷 現在の安曇野市豊科に生まれる	明治19 (1886)	荻原井泉水 東京に生まれる		
	内山 真弓 歌碑建立「ひかずさえ十日いちばのたびなれば たつにもさわぐわが心かな」		浅原 六朗 池田に生まれる		
	香川 景樹 歌碑建立「しき島のみちはあまりにひろければ みちともしうで人やゆくらん」				
	高山 彦雄 歌碑建立「あきらかにおさまる御代は雲の上 あめが下としてしめりたりける」				

昭和	
昭和4 (1929)	藤森 桂谷 歌碑建立「北山四季の詠」
昭和20 (1945)	岡 麓・斉藤 瀏 池田へ疎開して来る
昭和24 (1949)	一石四人の碑 建立
昭和28 (1953)	加藤犀水「山茂み遺徳讃えて仰ぐかな」 窪田空穂「池田びと愛で見はやさむ我手もて みどりとなせるときは木の山」 岡 麓「木をそだて林となして人々のためはかりけるところぞこは」 高浜虚子「大粒の雨になりけりほととぎす」
昭和38 (1963)	島木 赤彦 歌碑建立「この町の家ひくくして道広し 雪の山々あらわにし見ゆ」 岡 麓 歌碑建立「夏消えぬ雪のたか山やや遠に しばしば見ともつねあかなくに」 長谷川白鷺 句碑移設「あしもとへ 霧吹つけて ほととぎす」
昭和39 (1964)	浅原 六朗 「てるてる坊主」 童謡碑建立
昭和42 (1967)	岡 麓 歌碑建立「家あるじ折りたく紫の火うつりを ゆにあたたまりをりつつぞきく」
昭和45 (1970)	朱 北樵 漢詩碑建立「小室僅膝容膝 焚香観昨非」
昭和55 (1980)	桂川 正雄 歌碑建立「西原にひきあげかぞくの家たちて ともしびの見え牛の声する」
昭和58 (1983)	荻原井泉水 句碑建立「人生の有明 つばくらのごとき 父なりし」 岡 麓 歌碑建立「わき水の浅井のそのみえすきて 雨そそげどもにざりざりけり」 齊藤瀏・史 歌碑建立「墨染のそれとまかへと牡丹花の むらさきにはふおほなる月」瀏 浅原 六朗 句碑建立「人生のこと 愉しく哀しく 美しく春夏秋冬」